



1 土浦三高 元気な6人組



左から 岩崎さん、前野さん、川野さん、木村さん、石原さん、青野さん

本年度、最多6人が入学した土浦第三高等学校の学生の皆さんです。入学後三か月がたち感想を聞いてみました。木村さんは、「新たな環境での生活は大変ですが、自分の興味を持っているプログラミングなどの分野を学べて充実しています」、石原さんは「新校舎には様々な設備があり、ITに関する知識を学びたい人にはピッタリです」と嬉しそうに話していました。

2 多文化共生社会を考える



※黄磊氏は茨城大学に留学後、多文化共生と協創モデルを発展させ世界を豊かにする企業を創業。

実習内容を説明する学生

6月4日(木)の地域経済論(担当：宮田貞夫講師)は、講師に※黄磊(コウライ)氏を招き、多文化共生について学びました。学生達は講師からの課題(①日本企業の海外進出 ②インバウンド客の誘致 ③留学生の就職 等)の支援策についてグループで解決案を検討することとなります。グローバルな課題です。

3 「AX」の時代到来へ



熱く語る谷口英宣情報化統括監 (中央)

6月11日(木)、勝田工業高等学校で「いばらきP-TECH」(本校と連携高校のIT人材育成プログラム)のスタートアップ講演会が開催されました。講師の県情報化統括監の谷口英宣氏は、高校生に向けて「これからは学歴より、AIを使いこなせる人が勝つ」と激励しました。また、「これまでのDXからAX(AIトランスフォーメーション)となり、自ら変化し続けることが大切」と熱く話されていました。

4 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞日経新聞(2026年4月15日)

考え抜く力を養おう

大学での学び方：池上彰の大岡山通信

●荒川さん(土浦一高卒)

◇要約：大学は自問自答や議論を重ねながら、考える力を鍛えていく場である。自分の専攻分野を分かり易く伝える練習や、好奇心に突き動かされ、挑戦することは学生時代の財産となる。そうした全てが人生の土台となるだろう。

◇感想：教養とは考え抜き、答えを導き出す力。単純な知識量だけでなく、得た知識から何を考えていくのかという力だというのが印象的だった。

教わるだけの学習ではなく、自分なりの筋道をたて、これからの学習を進めていきたい。

●平田さん(水戸二高卒)

◇感想：大学生活が始まり、自分も不安であることが結構多かったのですが、この記事を読んで少し気持ちがすっきりしました。

学問に対する考え方や、人間関係のことなど、不安に思っていた点に言及されていてとても安心できました。

●植木さん(緑岡高卒)

◇感想：時間のある今こそ、積極的に学ぶ姿勢を大切に土台形成に努めていこうと思う。そして、今の状況に決して満足せず、多くの情報に触れ時間をかけて考え抜き、教養を身に付けて、一生の財産にしていこうと考えた。

●関さん(水戸商高卒)

◇感想：手間や時間を惜しまずに考え抜き、自分のために学ぶ時間を使えることは、学生時代ならではの大きな財産だと感じた。

社会人になると自由な時間も限られるため、今のうちに学びに向き合う姿勢が大切であると感じた。

●幸田さん(那珂高卒)

◇感想：大学は専攻分野を学ぶだけと考えていたが、他にも社会人としての重要な土台を形成できることに気づいた。

人への洞察力を磨くという点は、誰かのために考える我々にとって、特に意識しなければならないと思った。

